

国立公園における資金不足の解決に向けて： 目標金額とシード・マネーの情報提供で寄付を促進（日本）

■背景 & 目的

国立公園をはじめとする自然保護区では、**深刻な資金不足によって管理の継続に困難が生じている**。募金や協力金、入域料等は資金不足を解決する重要なアプローチとして知られている。しかし、自然保護区における人々の寄付/募金に関する知見の多くがアンケート調査研究に依拠しており、**実際どのような条件が本当に人々の寄付を促すのかを示す科学的知見は限られている**。

本研究では、大雪山国立公園・高原温泉沼めぐりコースを事例に、**どのような情報提供を行えば、人々に登山道補修に対する募金に協力してもらえるのか、フィールド実験を通じて明らかにした**。

●研究方法

以下の3つの条件下で、国立公園訪問者の行動を観察

- 条件① 情報提示なし: コントロール [Control]
登山道補修のための寄付を募っている情報のみ
- 条件② 他人の寄付情報の共有 [PREV]
募金キャンペーン初日に集まった金額の情報を追加で提供
- 条件③ シード・マネー情報の共有 [SEED]
目標金額と既に用意できている金額に関する情報を追加で提供



背景：登山道補修の様子



背景：フィールド実験の様子

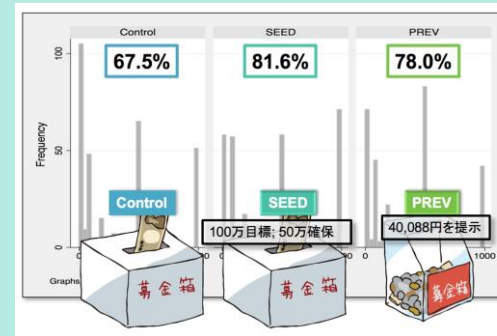
■結果

結果1) 寄付の有無について、条件①と比較して、

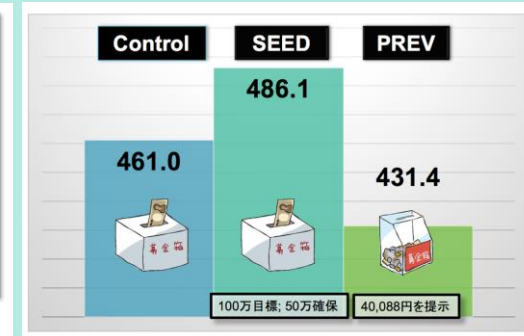
- 条件②他の人の寄付情報は**10.5%**、
- 条件③シード・マネー情報は**14.1%**、
- それぞれ寄付者を増加させた

結果2) 寄付金額について、条件①と比較して、

- 条件③シード・マネー情報のみが
- 寄付金額を増加させた



結果の概要：寄付の有無



結果の概要：寄付金額
(一人あたりの平均寄付額)